使徒言行録１章 12-26 節
「運命のくじ引き」

本日の聖書箇所は、主イエスが天にあげられた直後の様子から始まります。このとき、使徒たちに二つのことが約束されました。一つは 1 章 4 節にある「エルサレムを離れず、待ちなさい。…聖霊による洗礼が授けられる」という約束。そしてもう一つは 1 章 11 節にある主イエスがまた来られる、再臨の約束でした。

その約束の通りに、使徒たちはこの時もエルサレムにいました。みんなで何をしていたか。それは、熱心に祈りをささげていました。使徒たちは、聖霊が自分たちの所に来られるための準備をしました。その準備こそが、祈りでした。祈りとは、神との交わりの時であり、自分たちの心を神の方に向けること、そして神がなさることを、受け入れようとすることです。そのようにして、来るべき時に備えるのです。大勢の者が心を合わせて熱心に、一緒に祈っていたのです。聖霊を受ける約束を待つ時というのは、使徒たちが、証人となるための準備の時を過ごしていると言ってもよいでしょう。

ペトロは、十二使徒のユダが死んでしまったので、もう一人使徒として選ばなければならない、という話でした。最初から使徒としてふさわしい、という人は一人もいませんでした。ただ、復活の主イエスと出会い、罪を赦されたことによって、神によって使徒として立てられたのです。その証人となるべき使徒は、いまや 12 人から、ユダを欠いて 11 人になってしまいました。だから新たにもう一人を選ばなければならないと言います。使徒が十二人。旧約聖書に書かれている、神が選ばれたイスラエルの民は、十二部族ありました。その後主イエスによって救われた人々を、「新しいイスラエル」と言いました。主イエスの御業、神の救いを宣べ伝えて、世界中から新しいイスラエルの民を起こすために、選ばれたのが十二使徒です。ペトロの発言を聞いて、人々は使徒を選ぶために候補者を二人立てました。一人はバルサバと呼ばれ、ユストともいうヨセフ。もう一人は、マティアという人でした。そして、くじを引いてマティアに当たったので、この人が使徒に加えられた、とあります。ただくじ引きで選ばれたのではありません。まず、初めに祈りがありました。24 節にあるように、「すべての人の心をご存知である主よ、この二人のうちのどちらをお選びになったかを、お示しください。」と人々は共に、神の御心を尋ねて祈ったのです。人々は、神が定められたことを受け取るために、祈りをもって神の御心を尋ね、一人を選ぶということを行ったのです。こうして、「主の復活の証人」となる使徒たちの準備は整いました。あとは、聖霊を待つばかりです。

今日の聖書箇所では、使徒たちや人々は、ずっと祈っています。主イエスが聖霊を送ってくださると約束され、天に上げられてから、次の章で語られる、聖霊が一同の上に降ったという出来事が起こるまでは、十日間ありました。「間もなく」と約束された聖霊は、いつ来てくださるか分かりません。しかし使徒たちは、この約束が成就するときは近いとして、備えの時、祈りの時を過ごしました。そしてその熱心な祈りが、聖霊降臨、ペンテコステの時となり、祈りの群れの教会が建てられていったのです。教会はそのように祈って備えをなし、神の御心に従って、主イエスのご命令に従って、地の果てまで復活の主を証言するのです。わたしたちは神を礼拝し、その日が来るまで主イエスのことを宣べ伝えつつ、共に、心を合わせて熱心に祈り続けましょう。